



### 知って得する、ちょっと差がつく トリビア・コーナー

トリビア研究家 末崎 孝幸

末崎 孝幸氏

1945年生まれ。1968年一橋大学商学部卒業、同年日興証券入社。調査部門、資産運用部門などを経て、日興アセットマネジメント執行役員(調査本部長)を務める。2004年に退職。Facebook上での氏のトリビア投稿は好評を博している。



#### エベレスト初登頂の謎

世界最高峰・エベレストへの初登頂は1953年5月エドモンド・ヒラリー卿とシェルパのテンジン・ノルゲイの2人だが、その29年も前に山頂に立ったかもしれない人物がいることはあまり知られていない。その人物とは英国の伝説の登山家、ジョージ・マロリーである。

「なぜ山(エベレスト)に登るのか」との問いに、「そこに山があるから」(Because it is there)というマロリーの言葉は広く人口に膾炙している。マロリーはエベレストに3回挑戦しているが、今から93年前の1924年6月、3回目の挑戦時に山頂付近で消息を絶った。その75年目の1999年5月1日にエベレスト北面8160m地点で遺体が発見されたのである。その遺体はほぼ完全な形で発見され、当時、世界の登山界に大きな衝撃を与えた。マロリーが消息を絶ったのは登頂前か後なのか、議論を呼んだがカメラが発見されていないことや、彼が登頂に成功すれば山頂に置いてくるといっていた妻の写真も見つからないままなので、彼が山頂に立ったのかどうかはいまだに謎のままである。

また、日本人初のエベレスト登頂者は植村直己(1970年)、世界で女性初は田部井淳子(1975年)である。

(写真は18年前に発見されたマロリーの遺体・・・衣類など





## 長期投資仲間通信「インベストライフ」

は強風で吹き飛ばされていたが、遺体はほぼ完全な形で残っていた)

### 一を聞いて十を知る

孔子の弟子の中でも重要な弟子として論語に紹介されているのが「孔門の十哲」と呼ばれる10人の弟子たちだ。その中の顔回(最高位の弟子)と子貢にまつわる話である。

あるとき、孔子が子貢に質問した。「そなたと回とではどちらが優れているかな」。子貢は「とても回には及びません。しかし、回のようになろうとは思いません。回は一を聞いて十を知ることができます。私は一を聞いて二を知るのがやっとです」と答えた。孔子は「そうか、回に及ばないか。私だってそなた同様、回には及ばぬよ」と答えたという。

この故事から理解が非常に早く賢いことを「一を聞いて十を知る」というようになった。しかし、孔子の評価の高かった顔回は孔子に先立ち、若くして亡くなった。一方の子貢は魯や齊の国に仕え、その評価は高い。子貢が凡人だったわけではない。一を聞いて二を知ることですら、我々凡人には難しいことである。

### 引き出物(の語源)

結婚披露宴などの後に招待客に贈られるのが引き出物だが、その語源は「馬」である。

平安時代、宴会の招待客には馬を贈っていた。馬を庭に引き出して披露していたことから、引き出物というようになった。その後、馬の代わりに金品を贈るようになり、現在では招待客へのお土産を「引き出物」と呼ぶようになったのである。お土産だから誰にでも同じものを用意するのが慣わしだ。

### 間違えやすい会社名

味の素ゼネラルフーズ(ズではなく「ヅ」)

イトーヨーカ堂(社名は「堂」、店名はイトーヨーカドー)

オンキヨー(ヨは大文字)

キヤノン(ヤは大文字)

キューピー(ユは大文字)

三和シャッター工業(ヤは大文字)

シヤチハタ(ヤは大文字)

大平洋金属(太ではなく「大」)

大陽日酸(太ではなく「大」)



## 長期投資仲間通信「インベストライフ」

東洋シャッター(ヤは大文字)  
ニッカウキスキー(イではなく「キ」)  
日本コロムビア(ンではなく「ム」)  
日本トイザラス(「ら」は平仮名)  
ビックカメラ(グではなく「ク」)  
富士フィルム(イは大文字)  
ブリヂストン(ジではなく「チ」)  
ブルドックソース(グではなく「ク」)  
文化シャッター(ヤは大文字)  
三菱レイヨン(イは大文字)  
吉野家(屋ではなく「家」)  
(番外編)  
りそな銀行(英語表記は Risona ではなく、Resona)

### 祇園精舎(はどこにあるのか?)

「祇園精舎の鐘の聲、諸行無常の響あり。沙羅雙樹の花の色、盛者必衰の理をあらはす…」という『平家物語』の冒頭の文章はよく知られているが、「祇園精舎」が実際どこにあるのかを知る人は少ない。

祇園精舎は、インド北部コーサラ国にあった寺院であり、釈迦が説法を行った場所でもある。現在、その一帯は歴史公園に指定され、香堂(釈迦が寝食を行っていたとされる場所)などが残されている。

なお、実際の祇園精舎には長年鐘はなかったが、2004年に日本の「日本国祇園精舎の鐘の会」が鐘と鐘楼を寄贈した。

(追記)平安時代、藤原基経は京都の東山に牛頭(ごず、祇園精舎の守護神といわれる)天王をまつる観慶寺を建て、祇園精舎にならって祇園寺と名付けた。その門前町が現在の祇園であり、祇園寺は、後に八坂神社と改称している。



・写真は現在の祇園精舎